



近藤ダンボール			
業種	製造業	事業所所在地	岐阜県多治見市
		資本金	
		従業員数	8名

 	被承継者（左）		
	近藤 勲	80歳 (逝去)	※承継時
	承継者（右）		
	近藤 重利	49歳	※承継時
事業承継を行った時期		被承継者と承継者の関係	
2018年11月		子ども	
承継前の主たる事業の内容		承継前の主たる事業の課題	
地場産業の陶磁器用ダンボール箱、およびダンボールメーカーの下請け		・新販路の開拓（新たな流通ルートや直販の確立等） 主に規格外製品、小ロット商品の製造を主としているが、工場内に完成品在庫が雑然としており、作業スペースを占拠している。そのため、作業時にパレット積みした商品移動が多く、効率的ではない。そのため時間の浪費で新しい取組みができない。	

事業承継を実行するまで		
きっかけは？	承継計画の立案	承継までの不安と準備
承継実行の 0年前	被承継者と承継者で話し合ったこと	被承継者の承継に対する不安
被承継者の逝去に伴うもの	なし。	なし。
	関係者との調整	承継者の承継に対する不安
	取引先様とは良好な関係で、急な逝去ではあったが、いろいろと助言をいただいたりした。	亡くなる前にするのがいいのかよくわからない状態で実務のみ行っていた。


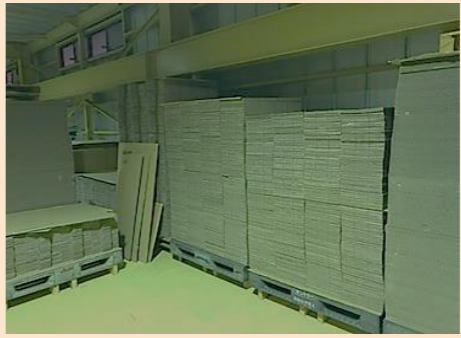

これに一番苦労した！

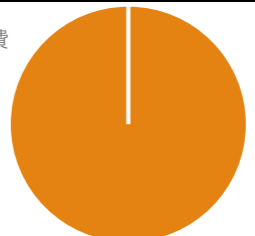
先代が逝去し事業の譲渡を受けたが、逝去する前も一緒に事業を営んでいたこともあり、事業承継にあたって大きな障壁はなかった。ただ、資産の相続や相続に係る税の問題等は、初めての経験でもあるため、税理士の指導を受けながら手続きをとった。

事業承継について相談したこと	
相談した機関の業種	承継に関して受けたサポート内容
商工会・商工会議所	多治見商工会議所の助言で事業承継補助金を利用して先代にできなかったことをやろうという意欲がわいた。主に補助金の種類や申請書類の書き方など、自分の知らなかった情報を提示・支援していただいた。
いつから相談？	
承継実行の 0年前	
相談のきっかけ	
取引先からの紹介	

経営革新等に係る取組の標題

段ボール箱製造における多品種少量生産を強化したオーダーメイド事業の展開

経営革新等に係る取組の内容	その他の新たな事業活動
<ul style="list-style-type: none"> ●大手メーカーが規格品の段ボール箱を量産する一方で、当社は職人が様々な機械やノウハウを活用して、量産ができない規格外品の段ボール箱を製造してきた。近年、業界全体で少ロット、短納期が求められており、そのようなニーズに応えていくため、小ロット、短納期を最大限まで追求したオーダーメイドダンボール箱の製造販売を計画した。しかし、日々作業するスペースを確保するために、製品を移動させる作業が必要なほど平屋の工場に所狭しとあふれている在庫と在庫管理の悪さを改善する必要があった。 ●そのため、平屋ではあるが工場の天井高が高いため、天井までの垂直スペースを有効活用して生産品の陳列棚を設置することにした。これにより、作業スペースを空けるための作業が削減され、生産性が向上した。 ●今後は、在庫管理の効率化を向上するための従業員教育や、ホームページにもオーダーメイドダンボールの需要を収集するITツールの導入等によりさらなる販売促進を目指す。 	
  	

地域経済やバリューチェーンへの貢献	補助対象経費の内訳
多治見市は、美濃焼の産地であり、梱包資材として段ボール箱が多く使われる。そのような中、当社は、様々なニーズに応えるため、試行錯誤しながら規格外の段ボール箱の製造を行える体制を築いた。今後は、多品種少ロットの生産体制を強化し、オーダーメイド事業を展開することでさらに付加価値を付ける。	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;">■ 設備費</div>  </div> <p>経費の主な使い道 設備費（陳列棚設置工事費）</p>

認定経営革新等支援機関の名称：多治見商工会議所			
認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 制度内容の理解	<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画の立案	<input checked="" type="checkbox"/> 各種提出書類の作成	<input checked="" type="checkbox"/> 補助事業の実施
各種提出書類の校閲、補助事業実施に向けてのスケジュール管理など。			

今後に向けて～次の目標	
2019年から2022年に向けて	ホームページ等を活用した新規需要を開拓する。
売上高 8%UP	

これから事業承継に取り組む事業者の方へ	
被承継者からの一言コメント	承継者からの一言コメント
逝去のためコメントなし。	今回の設備投資で作業者の無駄な時間を大幅に短縮できたため、十分満足しているが、補助金申請までの締切などの関係で承継をする以前よりこの補助事業でどんな設備投資をするのか研究する時間を持つことができれば機械設備の新規導入など違った利用もできたと思う。